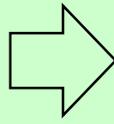


適時適切なかん水による高品質な輪ギクの安定生産

経営体の概要

経営開始当初（平成15年）
 基幹作物：（露地）輪ギク
 経営面積：1.0ha
 （うち畑かん未整備1.0ha）



現在（令和元年）
 基幹作物（施設）輪ギク、スプレーギク
 経営面積：1.7ha（※収穫延べ面積2.0ha）
 （うち畑かん整備済1.7ha）

※一部のほ場で2度切りされているため。

取組の経緯と経営転換のポイント等

本経営体の経営者は、16年前に就農してこれまで一貫して輪ギクの生産に取り組んでいる。当初、所有するほ場は、畑地かんがい施設が未整備であったため、苗を定植した後のかん水作業にかなりの時間を要していたが、県営事業により平成8年に畑地かんがい施設が整備されたほ場を平成28年に借り、補助事業等による平張りハウスの整備と併せて自動かん水装置の導入を行ったことで、自動制御による適時適切なかん水が可能となり、かん水作業の省力化と輪ギクの単収・品質の向上につながっている。

営農改善のポイント

①栽培技術の確立・向上、省力化

以前は、挿し床に芽を挿して根をしっかりと張らせ、冷蔵庫に1週間保存した後にほ場へ定植することで、育苗から定植まで全3週を要していたが、畑地かんがい施設が整備されたほ場では、自動かん水装置によるこまめなかん水により、挿し芽を直接ほ場に定植する「直挿し」栽培が可能となったことで、従来と比べて作業に要する時間は2週間以上短縮され、かん水作業も約3時間/10aから約0.5時間/10aに省力化している。

右：平張りハウス横に設置されている自動かん水装置



輪ギクほ場（平張りハウス）

②単収、品質の向上

輪ギクは、小ギク等の他のキク類に比べて芽かき（摘蕾）等の手間がかかり、島内でも作付けが減少しているが、平張りハウスと自動かん水装置を組み合わせた施設栽培に移行させ、かん水等の省力化により生じた労働力を栽培管理に振り向けられるようになったことで、単収の増加（定植本数：10a当たり24千本→60千本）及び定植時期別に茎丈を揃えて市場評価の向上を図ってきた結果、売上額が4割程度増加している。



茎丈が揃った輪ギクの芽かきの様子

事業概要

事業種：国営かんがい排水事業
 関係市町：伊江村
 受益面積：668ha
 事業期間：平成16年度～29年度
 事業目的：畑地かんがい、用水改良
 主要工事：地上ダム 1箇所
 ファームポンド 2箇所
 揚水機場 2箇所
 用水路延長 9.0km
 中央管理所 一式

位置図（沖縄県）



<局問い合わせ先>

沖縄総合事務局
 農村振興課 広域調査係
 電話：098-866-1652
 （内線：83342）

（令和元年調査時点）